

しています。研究成果を自社製品に限定せず、知財を外部と共有しコンサル料などを得る「TBC」を推進。DX や組織改革にも取り組み、異分野融合や外部連携による開発加速を図ります。2035 年に 300 億円の収益目標を掲げ、自由で挑戦的な研究風土の醸成も進めています。

【3/31・日経 XT】 [レポート ヤマ発の設楽新社長が描く技術戦略、研究開発費 1300 億円増の 4900 億円 木崎 健太郎 日経クロステック／日経ものづくり](#)

ヤマハ発動機は、2025 年度からの新中期経営計画で研究開発費を 1300 億円増の 4900 億円に拡大し、技術戦略を強化します。設楽新社長の下、エネルギーマネジメントや知能化、ソフトウェアサービスを新たなコア技術とし、水素エンジンや自動運転技術などの開発を推進します。コア事業である二輪車・マリン分野に重点的に投資し、環境計画では温室効果ガス排出量を 2010 年比で 2027 年に 74%削減、2035 年のカーボンニュートラル達成を目指します。

【3/31・日経 XT】 [ニュースの深層 仕入れ価格引き上げに本気のトヨタ、旧型補給品も脱炭素対応も負担 近岡裕 日経クロステック／日経ものづくり](#)

トヨタ自動車は、2025 年度から仕入れ価格の引き上げ対象をサプライチェーン全体に広げ、本気で価格転嫁に取り組みます。材料費やエネルギー費、人への投資など従来の 6 要素に加え、新たに旧型補給品費とカーボンニュートラル対応費も加味します。特に脱炭素対応では、再エネやリサイクル素材使用に伴うコスト増を同社が負担します。ティア 2 以降の企業への支援強化を図る一方、独禁法上の制約にも配慮し、ティア 1 を介した連携と支援を進めています。

【3/31・日経 XT】 [ニュース解説：建築・住宅 麻布台ヒルズなど初認定 14 件を一覧、国の優良緑地評価制度「TSUNAG」が始動 木下 順平 日経クロステック／日経アーキテクチャ](#)

国の新制度「TSUNAG（優良緑地確保計画認定制度）」が始動し、麻布台ヒルズなど 14 件が初認定されました。都市計画区域内で質の高い緑地整備を行う民間プロジェクトに対し、無利子貸付などで支援を行い、緑地の確保と質向上を促進します。評価は最大 150 点満点で、緑地面積と質に応じて三段階にランク付けされ、最高評価のトリプル・スターは 10 件。認定は国際的な ESG 評価との連携も図られており、企業の脱炭素経営にも資する制度となっています。

[目次へ](#)

□ 4/1 (火)

【4/1・日経 XT】 [ニュース解説：建築・住宅 「ゼロカーボンベースボールパーク」の阪神 2 軍新球場、野球施設初の ZEB Oriented 山崎 颯汰 日経クロステック／日経アーキテクチャ](#)

阪神タイガース 2 軍の新球場「日鉄鋼板 SGL スタジアム 尼崎」が、国内野球施設で初めて ZEB Oriented 認証を取得しました。この球場は「ゼロカーボンベースボールパーク」の中核施設として整備され、LED 照明や断熱強化、再生素材の活用などで一次エネルギー消費量を 43%削減。太陽光発電や蓄電池も導入し、電力の 80%超を自家発電で賄う計画です。持続可能な都市整備の先進事例として注目されています。

[目次へ](#)

□ 4/2 (水)

【4/2・日経 XT】 [インフラビジネスウオッチ 突出する VINCI のコンセッション利益率、米有料道路で初の大型買収 瀬川 滋 日経不動産マーケット情報、編集協力：インフラビジネスパートナーズ](#)

フランスの VINCI 社は 2024 年、売上高約 11.8 兆円・EBIT 約 1.5 兆円で過去最高業績を達成しました。特に道路や空港運営を担うコンセッション部門は、売上高の 16%に対して EBIT の 63%を占め、利益率 49%と群を抜いて

います。米国の有料道路「Northwest Parkway」の買収やブラジルでの長期運営権獲得など、グローバル展開も強化。高収益なインフラ運営ビジネスとしての存在感が一層高まっています。

【4/2・日経 XT】 [記者の眼 日本の太陽光発電が大復活へ、苦境の洋上風力発電にも可能性 野澤 哲生 日経クロステック／日経エレクトロニクス](#)

第 7 次エネルギー基本計画では、太陽光発電に対する姿勢が大きく転換され、「終わった」とされた太陽光への注力が復活しました。特に、営農型太陽光発電や荒廃農地・インフラ空間の活用が打ち出され、2040 年までに約 300GW の導入目標が示されています。一方、洋上風力発電は期待に反し資材高騰などで事業が停滞し、導入熱が冷めた様子が見えられます。ただし、長期的には再び注目される可能性もあると記事は指摘しています。

【4/2・日経 XT】 [ニュース解説 Lamborghini が「ターボなのに 1 万 rpm」の新型エンジン、V10 を手放した理由は？ 伏木 幹太郎 日経クロステック／日経 Automotive](#)

ランボルギーニが新型 PHEV「テマリオ」に搭載した V 型 8 気筒ツインターボエンジン「L411」は、量産スポーツ車用としては異例の 1 万 rpm を実現しました。これは高回転型 NA エンジンのような加速感をターボでも再現するための設計で、ウラカンの V10 に代えて小型・軽量の V8 を選択したことが背景です。モーターとの組み合わせによりターボラグを補い、環境性能も大幅に向上。CO2 排出量を最大 50%削減したと発表しています。

【4/2・日経 XT】 [ニュース デンソー系と東京科学大の AI 研究講座が発展、認識・学習から「制御」へ 宮武 朋晃 AI・データラボ／日経クロステック](#)

デンソーITLAB と東京科学大学は、2025 年 4 月より新たに「認識・制御・学習アルゴリズム共同研究講座」を開設します。従来の AI による認識・学習に加え、制御分野へ研究を拡張することで、自動運転やロボティクスなど次世代モビリティ技術の中核を担うことを目指します。モビリティ産業の電動化・知能化が進む中、AI と制御技術の融合による社会的インパクトの創出を狙っています。

[目次へ](#)

□ 4/3 (木)

【4/3・日経 XT】 [ニュース NTT データ子会社のクニエ、データを活用してサプライチェーンの改善を支援 大川原 拓磨 日経クロステック／日経 NETWORK](#)

NTT データ子会社のクニエは、2025 年 4 月にサプライチェーンの課題解決を支援する新サービス「SCM データインサイト・コンサルティング」を開始しました。本サービスは、定性的な情報とビジネスデータを組み合わせ、「問題抽出」「原因特定」「解決策策定」「効果算定」の 4 段階で SCM の改善を支援します。背景には、気候変動やパンデミックなどによる SCM の複雑化があり、財務指標や KPI で効果を定量的に把握する必要性が高まっています。

【4/3・日経 XT】 [ニュース 大型トラックが原因の医療費は EV のインフラ費用を上回る 榎谷 さえ子 日経 Automotive 専属ライター](#)

フィンランドの非営利団体 CREA は、大型トラックの排ガスによる健康被害の医療費が 2014～2040 年で世界全体で 1 兆 4000 億ドル超に達し、EV インフラ整備費を上回ると報告しました。特に NOx 排出が健康や経済に深刻な影響を与え、母子への被害や労働生産性の低下も指摘されています。報告書は、NOx 以外の有害物質も含めたさらなる損失を見込んだ上で、トラックの電動化を加速する政策の必要性を訴えています。

